

バイクの価値をもっと活かそう！

社会に役立つ バイクの**カ**ちから

**あなたは“バイク”に
どんなイメージを抱いていますか？**

実は、小さなバイクから大きなバイクまで、
さまざまな場面で社会に貢献しています。
「バイクの良さをもっと広めたい」という願いをまとめました。

JAMA

生活を豊かにする パーソナルコミューター

活気ある社会のためには、地域の人たちがいつでも便利に移動できる手段が必要です。バイクは通勤・通学、買い物など日常の足として、とくに公共交通機関が不便な地域では、暮らしに欠かせない移動手段になっています。



経済活動を支える フットワーク

郵便や新聞配達、食品のデリバリーから、電気・ガスの検針、オフィス機器のメンテナンスなど、バイクは多くの仕事に利用されています。機敏なフットワークが、日本の経済活動を支えています。



もっと
知ってほしい!
バイクの



行政業務を担う 機動力

地域社会を守るため、バイクの機動力を活かして、警察では白バイが、消防では赤バイが緊急車両として活動しています。

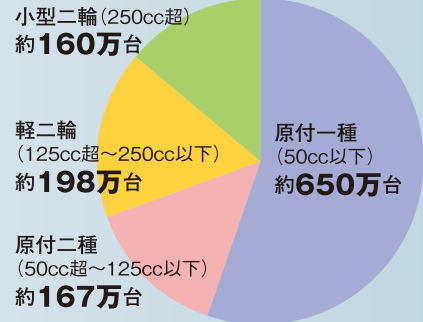


今、この瞬間もバイクが活躍しています。

バイクの保有台数は
日本全国で約1,100万台。
日本人の約11人に1人が
利用しています。

1,100万台
が活躍

■バイク車両区分別保有台数



出典：国土交通省・総務省



のべ
約8,200万人
が乗れるバイク

原付一種は、普通自動車免許で
運転することができます。
このため、原付一種を運転できる人口は、
日本全国でのべ約 8,200 万人にも達します。
また、原付免許と普通自動二輪車免許は、
満 16 歳で取得でき、若者の大切な
交通手段となっています。

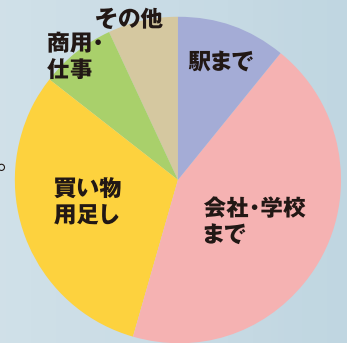
実力



さまざまな
利用シーン

■原付一種・二種の主な利用目的

バイク全体の7割を占める
原付一種や二種は、
主に通勤・通学、買い物・
用足しに利用されています。
排気量の大きなバイクは、
ツーリングなどの趣味に
利用されています。



バイクは
エコノミー
な乗り物

車両の購入にかかる費用はもちろん、税金、
自賠責保険、車検費用、保管費用などとても
経済的です。とくに原付一種や原付二種は、
車体が軽量なため燃費がよく、たいへん
エコノミーな乗り物です。

■1km 走行当たりのガソリン代

原付一種：**2.3**円 原付二種：**2.9**円

※燃費 (WMTC モード) は、国内メーカー各社の代表的な
モデルの平均値。

※ガソリンは 1 リットル当たり 130 円で試算。



**小回りが
利く**バイク

バイクは小回りが利くため、交通の繁雑な市街地や
住宅街でも活動的。

郵便や新聞配達などきめ細かな移動が得意です。

また大震災などでガレキが散乱した道路でも

バイクは機動力を發揮します。

阪神・淡路大震災時、クルマは16時間かかった行程が、
バイクでは2時間だったという記録もあります。

いま注目されているバイクの社会貢献!



大規模災害時の対策にも活用できます。

自然災害に強い国・地域をめざして、さまざまな取り組みが行われています。
市町村の災害対策課でも災害時の活動用バイクを導入するケースが出てきています。
市民のライフラインを確保するうえで、自治体によるバイク活用は、地域の安全安心に大きく寄与します。

安全安心な
社会づくり



写真提供：静岡市オフロードバイク隊

可能性



高校生の
通学手段

社会のルールやマナーをバイクから学ぶ教育が始まっています。

公共交通機関が不足する地域では、高校生にとってバイクは大切な通学手段。
バイク通学を認める学校では、地域と協力して実技講習会などを実施し、交通安全教育に取り組んでいます。
高校生たちはバイクの安全運転を通じて、社会生活のルールやマナーの大切さを学んでいます。



観光地の 振興に寄与



写真提供：埼玉県小鹿野町

ツーリング客を
呼び込む
観光振興策が増加。

ツーリングライダーの行楽は、観光地の経済に大きく寄与しています。

東日本大震災で大きな被害を受けた福島県では、多くのライダーを呼び入れ、観光振興に成果をあげています。また、埼玉県小鹿野町では「バイクの街おがの」を推進。各地の「道の駅」では、バイク専用駐車場やライダー割引きの食事メニューも登場するなど、多くのライダーが訪れて、地域の振興に貢献しています。



地方創生 に活用

バイクとの共生を宣言する
自治体が続々。

写真提供：鈴鹿商工会議所



バイクの振興と地域の発展を合わせて進める自治体が増えています。

鈴鹿市では、毎年夏に県内外から600台ものバイクを集め、鈴鹿市長も参加しての大パレードを実施。浜松市は、毎年夏に「バイクのふるさと浜松」というイベントを開催。また「ライダーが住みたくなる県」日本一を目指す熊本県など、産業振興などを目的にバイクとの共生宣言をする自治体が増えています。



バイクの価値をもっと活かすために必要なこと!



バイクの利用環境に関する主な課題

- ① 二輪車駐車場整備促進 → 大都市圏を中心に更なる整備促進を!
- ② 高速道路料金適正化 → 車両の大きさ・重さに見合った料金体系に!
- ③ 二輪車通行禁止区域の撤廃 → 理由が解消・改善している規制は見直しを!
- ④ 二輪車の走行空間の確保 → 自動二輪車は「バス専用通行帯」を含む複数の通行帯を走行可能に!
- ⑤ 高齢者・高校生への安全教育の充実 → 交通ルールとマナーの浸透を図り、安全な二輪車利用を!
- ⑥ 小型限定普通二輪免許の取得簡便化 → 取得にかかる日数などを短縮し、免許を取得しやすく!
- ⑦ バイク防災隊支援活動 → 防災・減災にもっと二輪車活用を!

●ご参考：日本自動車工業会 HP：「モーターサイクル」 <http://www.jama.or.jp/motorcycle/>

課題の解決に向けたご理解とご協力をお願いいたします。



現在、国（経済産業省）、自治体、二輪車業界団体が一体となって、「二輪車産業政策ロードマップ」を策定し、バイクに関する戦略的な産業振興、文化発展に取り組んでいます。
バイクの利用環境が向上すれば、その有用性がいっそう発揮され、これまで以上の活用が可能です。

●ご参考：BIKE LOVE FORUM サイト：<http://www.bikeloveforum.jp/>

一般社団法人 日本自動車工業会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30
<http://www.jama.or.jp>